

# 2019年3月期 第2四半期決算説明会

---

2018年11月21日  
阪和興業株式会社

# 連結経営成績

## 第2四半期連結累計期間（4-9月）

(億円)	第2四半期連結累計期間（4-9月）			
	2017年度	2018年度	増減額	増減率 (%)
売上高	8,369	10,049	+1,679	+20%
売上総利益	335	379	+43	+13%
販管費	221	247	+26	+12%
営業利益	114	131	+16	+15%
経常利益	131	108	▲ 22	▲ 17%
親会社株主に帰属する四半期純利益	85	65	▲ 19	▲ 23%
一株当たり四半期純利益	210.40円	161.53円	▲ 48.87円	▲ 23%
四半期包括利益	109	51	▲ 58	▲ 54%

▶ 売上高

鋼材価格が高水準にあったことや合金鉄等の拡販などにより、前年同期比20%の増加。

▶ 販管費

前年同期比12%増加（内、新規連結影響7%）。人件費は約17億円の増加。

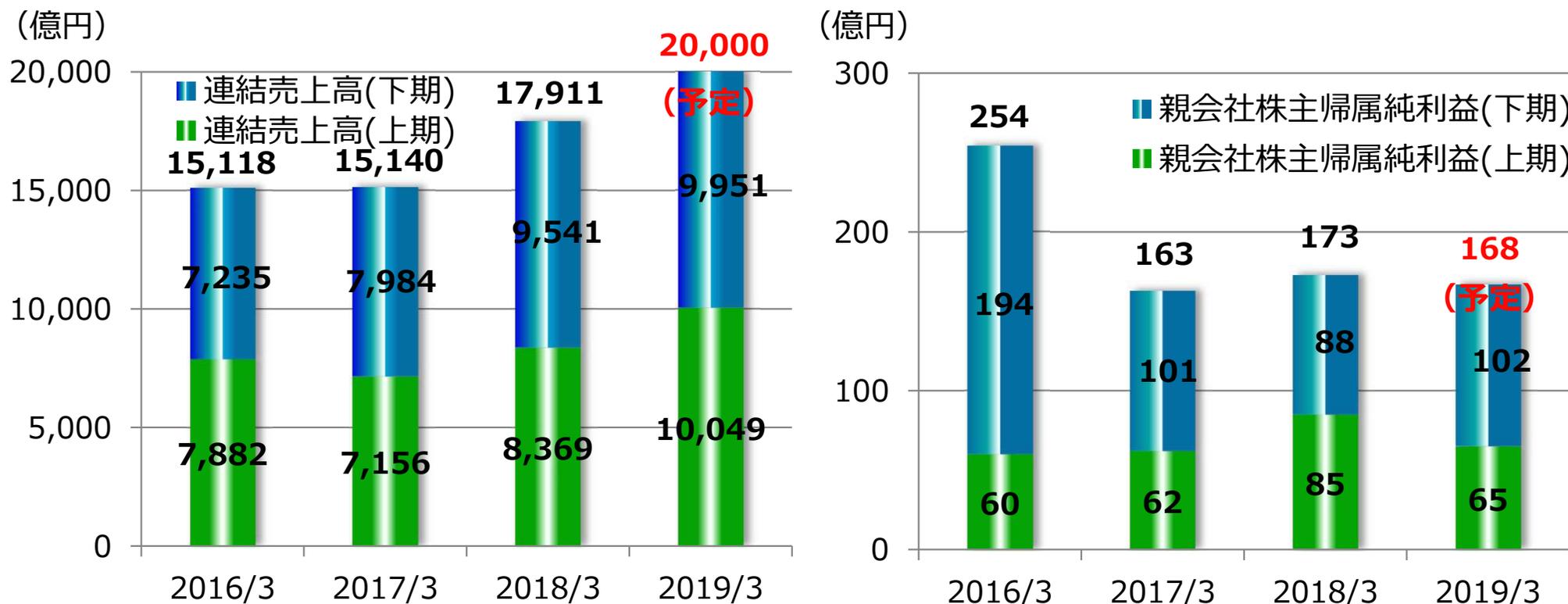
▶ 経常利益

前年同期の為替差益（4億円）の差損（24億円）への転換、持分法投資利益（9億円）の損失（1億円）への転換により、17%減益。

▶ 親会社株主に帰属する四半期純利益

特別損失として投資有価証券評価損等を計上したことにより23%減益。

# 業績推移



- ▶ 売上高は、鋼材や資源価格の上昇に伴い、増加傾向。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損益の影響もあり前期に比べ減少。

(当第2四半期における特別損益)

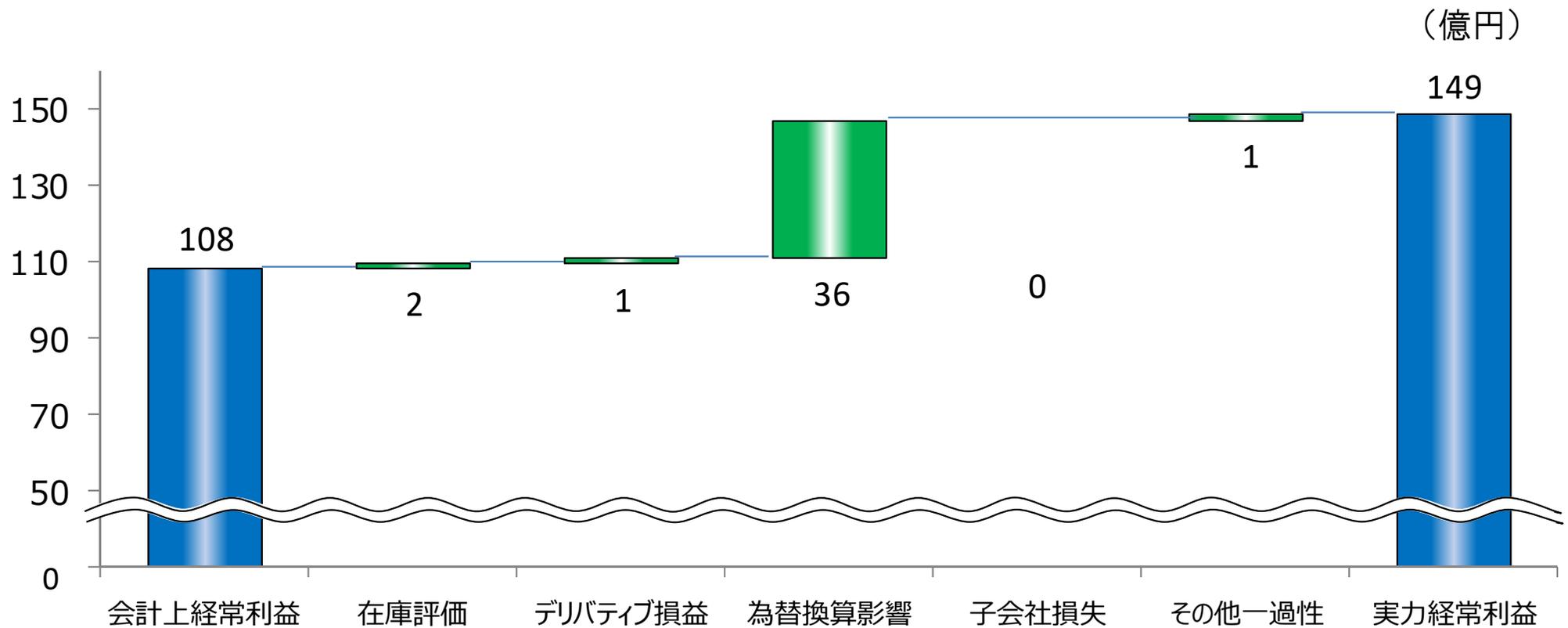
投資有価証券評価損：約10億円

固定資産売却益：約4億円

固定資産売却損：約1億円

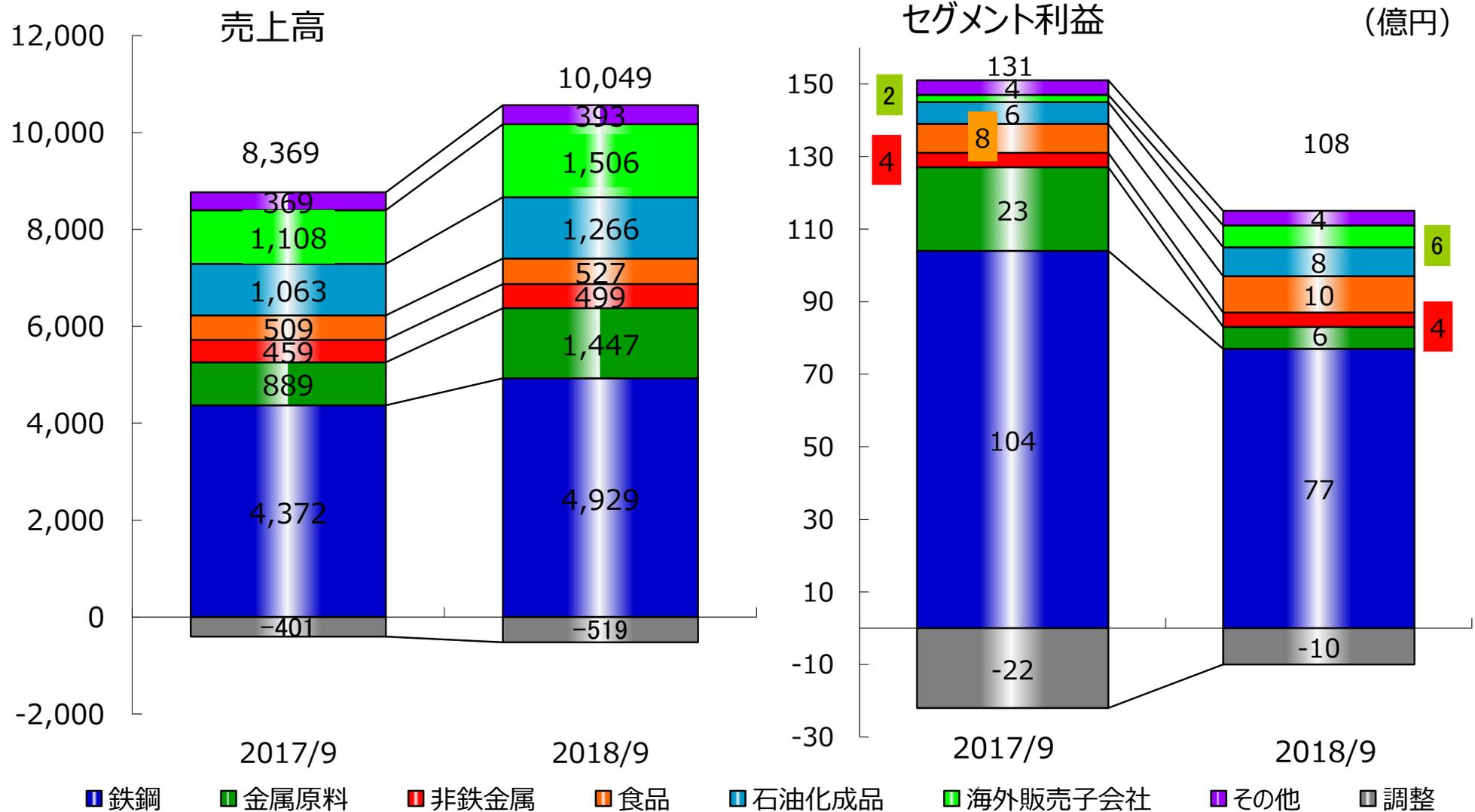
災害損失：約1億円

※2016年3月期は、不動産の売却に伴う税金の押し下げ効果による一時的な増益。



- ▶ 経常利益108億円に対し、在庫評価やデリバティブなどの期末時価評価損益、外貨建債務の換算、その他一過性の要素を除外すると、実力ベースでは149億円程度の経常利益を実現（前年同期の実力値は115億円）

# 事業セグメント別の状況



- ▶ 売上高は、全ての報告セグメントで増収に。
- ▶ 利益面では、鉄鋼事業において鋼材の上昇ペースが鈍化したことにより利幅が縮小したほか、金属原料事業において為替差損と持分法投資損失の影響などにより減益となった。

# 連結財政状態

	連結会計期間				
	(億円)	2017年度 期末	2018年度 2Q末	増減額	増減率 (%)
総資産		8,603	9,548	+944	+11%
負債		6,566	7,476	+910	+14%
有利子負債		3,255	3,798	+542	+17%
ネットDER		1.5倍	1.8倍	0.3倍	-
純資産		2,037	2,071	+34	+2%
自己資本		1,878	1,924	+46	+2%
自己資本比率		21.8%	20.2%	▲1.6pt	-
1株当たり純資産		4621.96円	4737.13円	115.17円	+2%

▶ 総資産

たな卸資産や前渡金の増加などにより、前期末比11%増。

▶ 有利子負債

運転資本の増加に対応するため短期借入金やCPが増加し、前期末比17%増。ネットDERも1.8倍に増加。

▶ 純資産

四半期純利益からの利益剰余金の積み上がりなどにより、前期末比2%増。一方、自己資本の増加に比べ負債の増加幅が大きかったため、自己資本比率は前期末比1.6pt減少。

	第2四半期連結累計期間（4-9月）			
	2017年度	2018年度	増減額	増減率 (%)
(億円)				
営業活動によるCF	▲ 72	▲ 392	▲ 319	+440%
投資活動によるCF	▲ 335	▲ 73	+261	▲78%
FCF	▲ 408	▲ 466	▲ 58	+14%
財務活動によるCF	441	484	+43	+10%
現金及び現金同等物期末残高	316	376	+60	+19%

- ▶ 営業活動によるCF  
 たな卸資産や前渡金の増加などにより、392億円の支出。
- ▶ 投資活動によるCF  
 有形固定資産の取得や短期貸付金の増加などにより、73億円の支出。
- ▶ 財務活動によるCF  
 資金需要の増加に対応した短期借入金の増加などにより、484億円の収入。

# 連結業績予想（通期）

	通期（4-3月）			
	2017年度 （実績）	2018年度 （当初予想）	2018年度 （新予想）	対前年度増減率 （%）
売上高 （億円）	17,911	20,000	20,000	+12%
営業利益	262	310	310	+18%
経常利益	255	300	260	+2%
親会社株主に帰属する当期純利益	173	195	168	▲4%

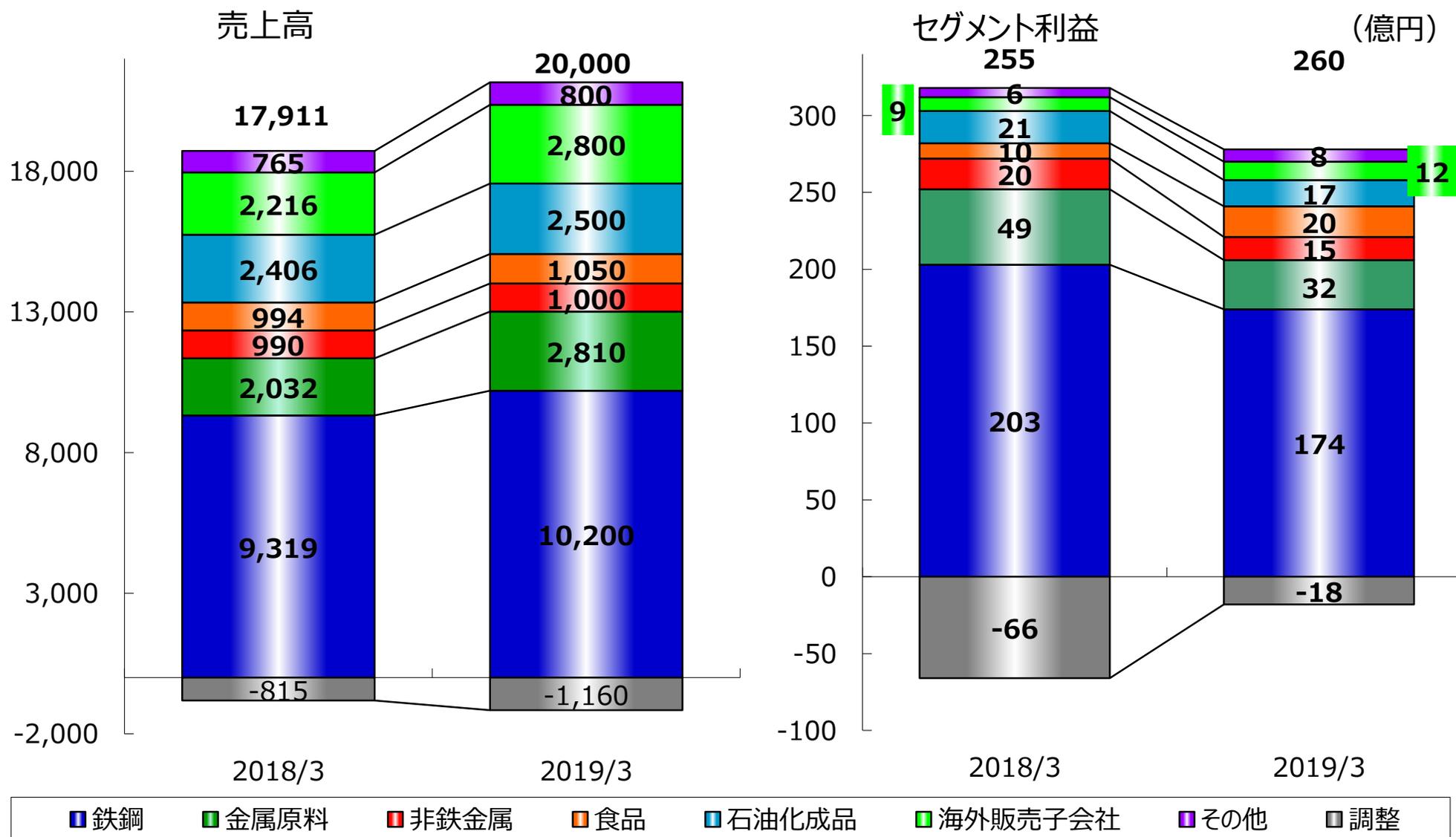
▶ 売上高予想

対予想進捗率が50.2%と期初予想に沿った進捗率につき、据え置き。

▶ 利益予想

営業利益は据え置く一方、経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益については、持分法適用会社であるサマンコールによる利益貢献が遅れていることや、為替差損等の影響を加味して、それぞれ260億円、168億円に修正。

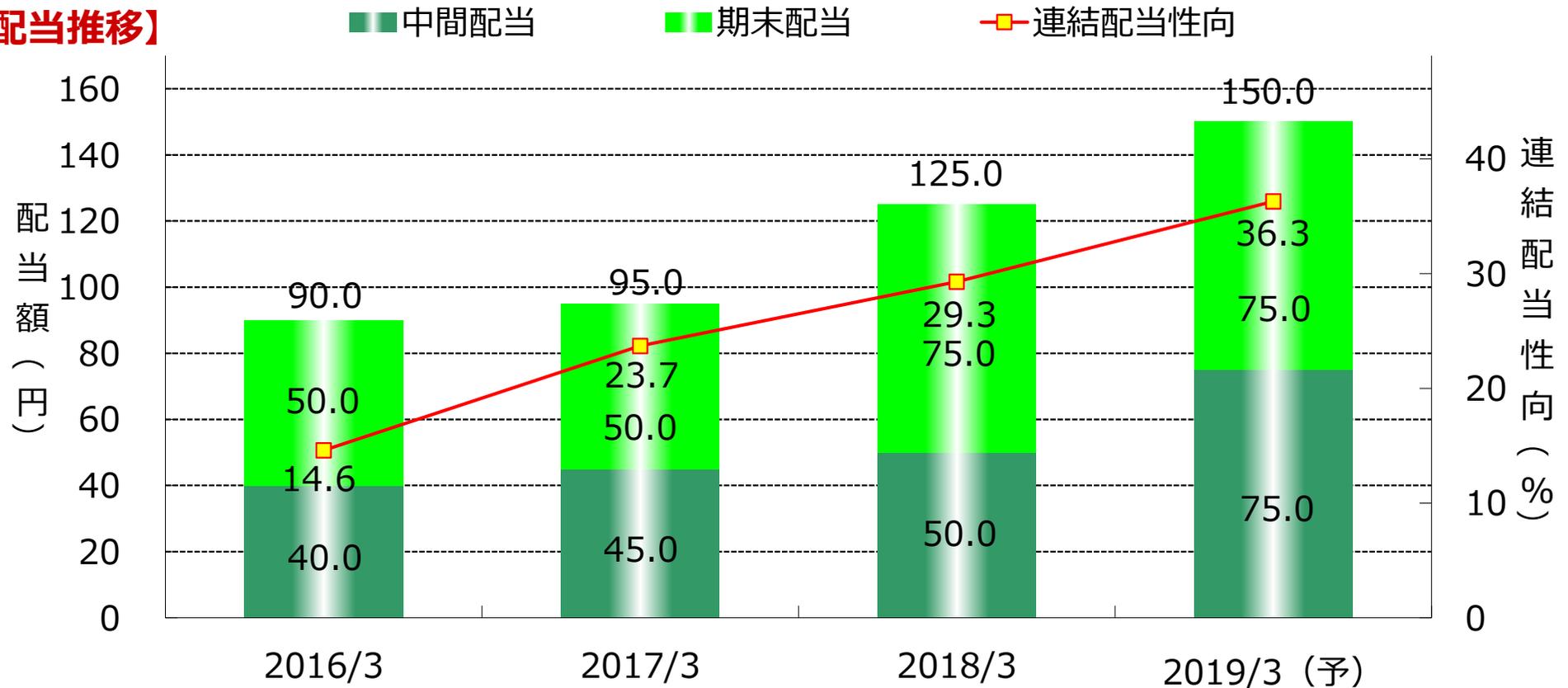
# 事業セグメント別予想



- ▶ 売上高は、全ての事業セグメントにおいて増収を見込む。
- ▶ セグメント利益は、主に鉄鋼事業・金属原料事業において減益を見込むものの、全体としては増益の見込み。

# 株主還元方針

## 【配当推移】



## 【配当方針】

安定した配当を継続して実施することを第一義に、収益力の向上に努め、基礎的な収益水準の上昇とともに、戦略的投資からの利益回収状況に合わせて、配当額の増加を目指してまいります。

(当期配当予定)

中間配当：一株当たり 75円 期末配当：一株当たり 75円

(過年度の配当は、株式併合 (5株→1株) の影響を考慮して再計算したもの)

# 鉄鋼事業セグメントの状況

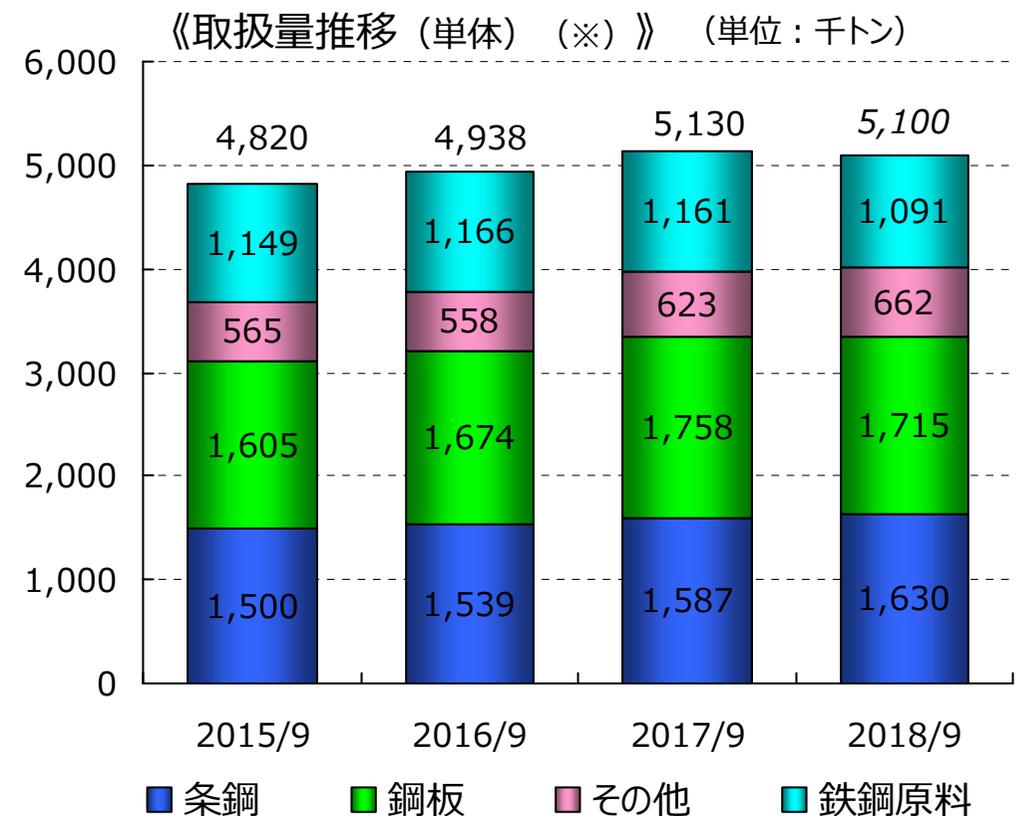
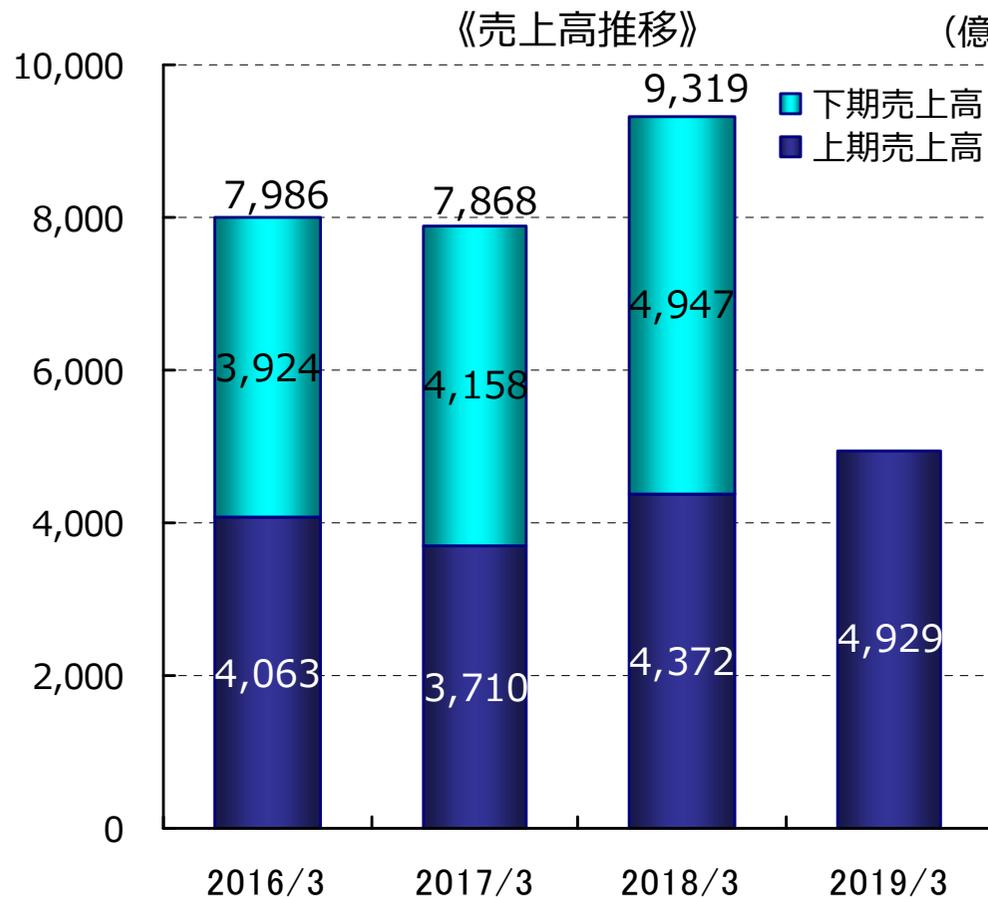
(億円)	第2四半期連結累計期間 (4-9月)		
	2017年度	2018年度	増減率 (%)
売上高	4,372	4,929	+13%
セグメント利益	104	77	▲26%

## ▶ 売上高

鋼材需要が堅調に推移し増収。

## ▶ セグメント利益

鋼材価格は前年度に引き続き高い水準を維持したものの、上昇ペースは鈍化し、仕入れコストの増加により減益。



(※ 従来、商品別数量を記載しておりましたが、今回より各事業セグメントに属する部署の取扱数量に変更しております。)

# 金属原料事業セグメントの状況

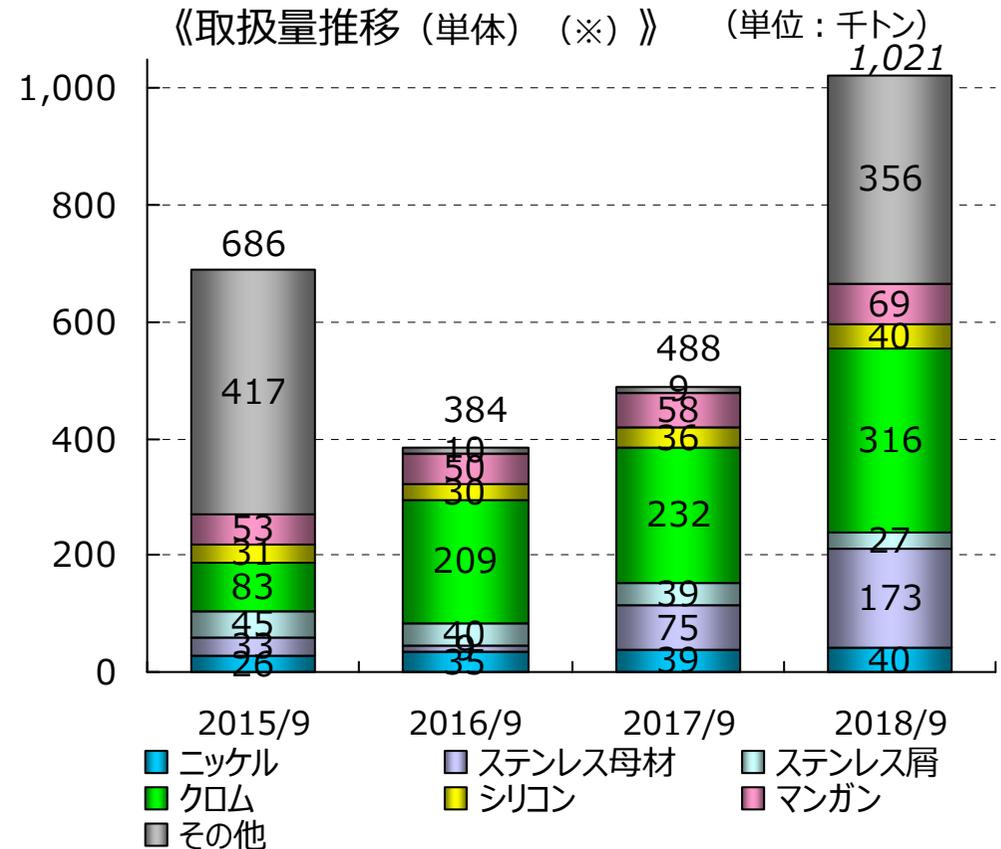
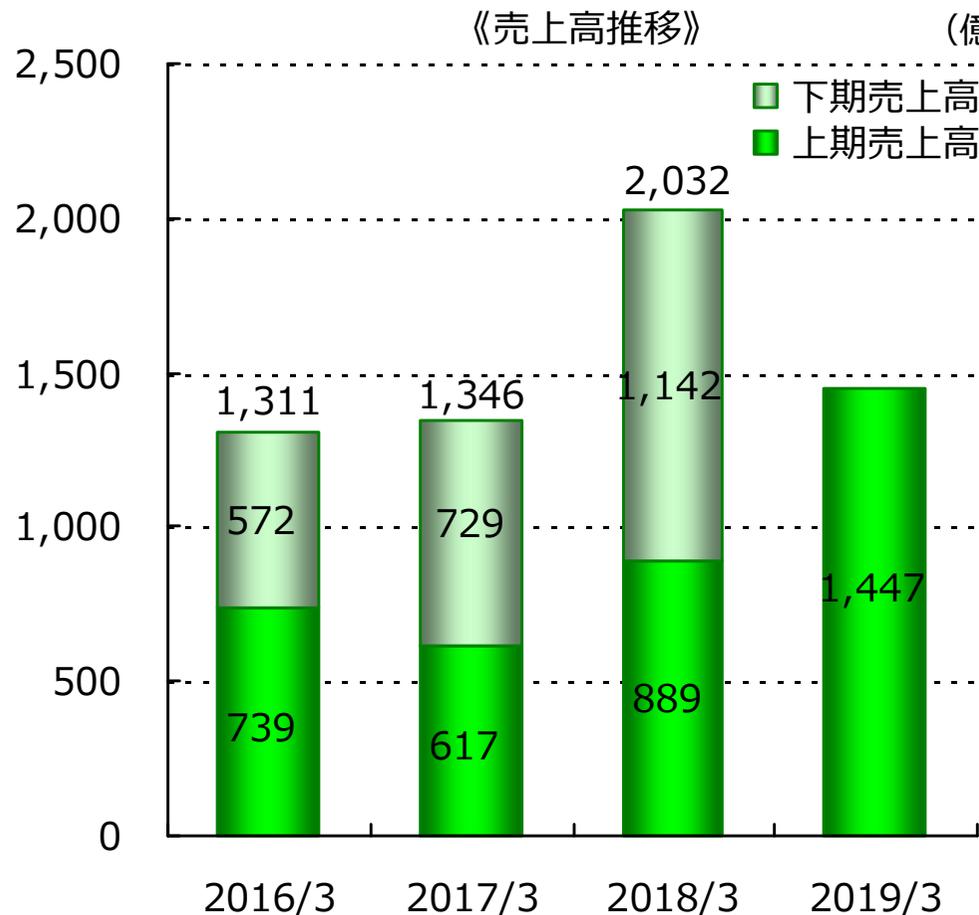
(億円)	第2四半期連結累計期間 (4-9月)		
	2017年度	2018年度	増減率 (%)
売上高	889	1,447	+63%
セグメント利益	23	6	▲71%

## ▶ 売上高

ニッケル・シリコン系の合金鉄価格が上昇した他、クロム系合金鉄やステンレス母材の拡販により増収。

## ▶ セグメント利益

為替差損や持分法投資損失により下押しされ減益。



(※ 従来、商品別数量を記載しておりましたが、今回より各事業セグメントに属する部署の取扱数量に変更しております。)

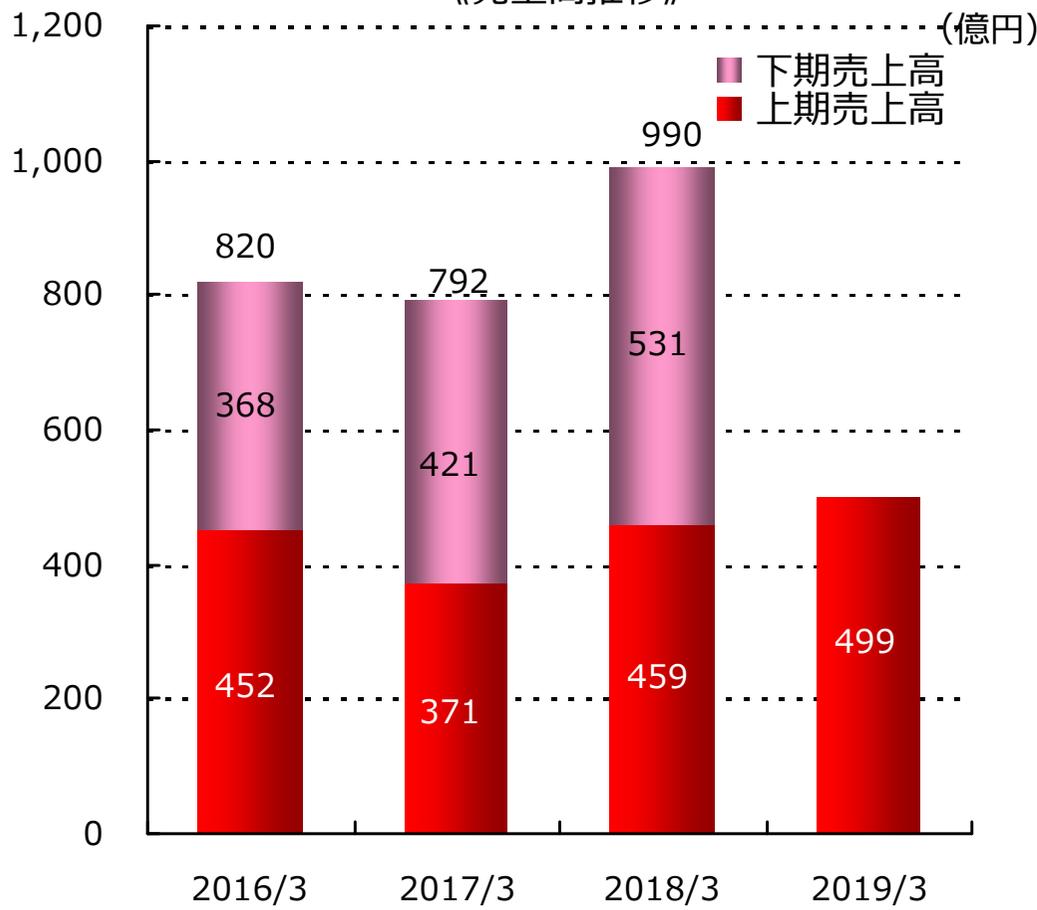
# 非鉄金属事業セグメントの状況

## 第2四半期連結累計期間（4-9月）

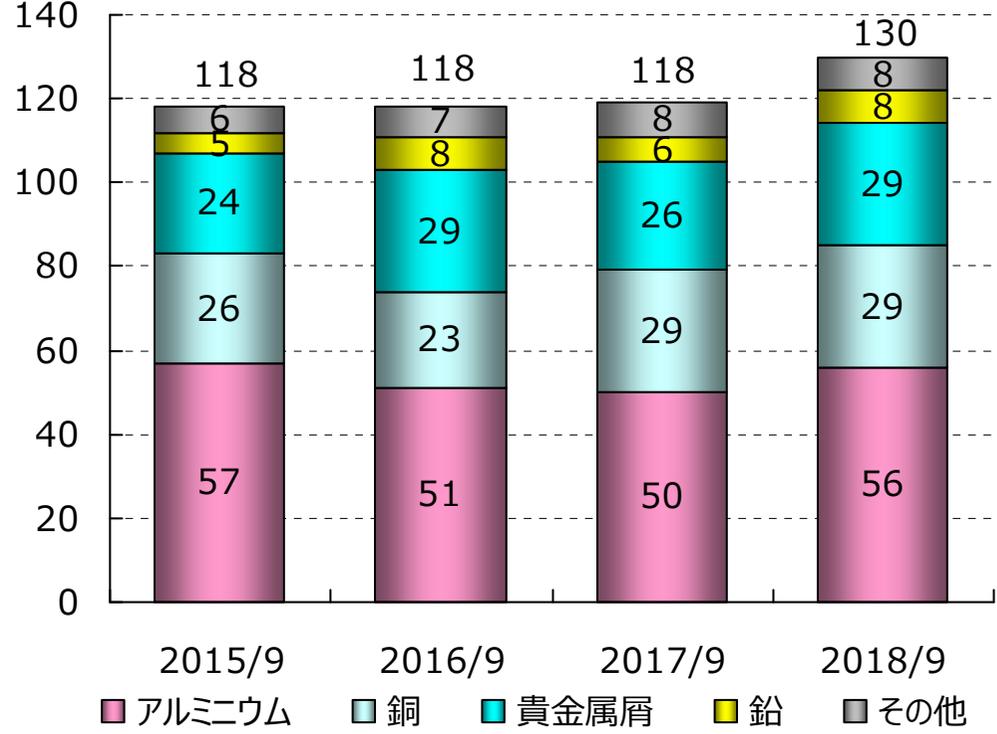
(億円)	2017年度	2018年度	増減率 (%)
	売上高	459	499
セグメント利益	4	4	▲6%

- ▶ 売上高  
国際価格が高い水準で推移したことに加え、アルミ・銅スクラップの販売増により増収。
- ▶ セグメント利益  
商品価格の上昇幅が縮小したことや為替差損の発生などにより減益。

《売上高推移》



《取扱量推移 (単体) (※)》 (単位：千トン)



(※ 従来、商品別数量を記載していましたが、今回より各事業セグメントに属する部署の取扱数量に変更しております。)

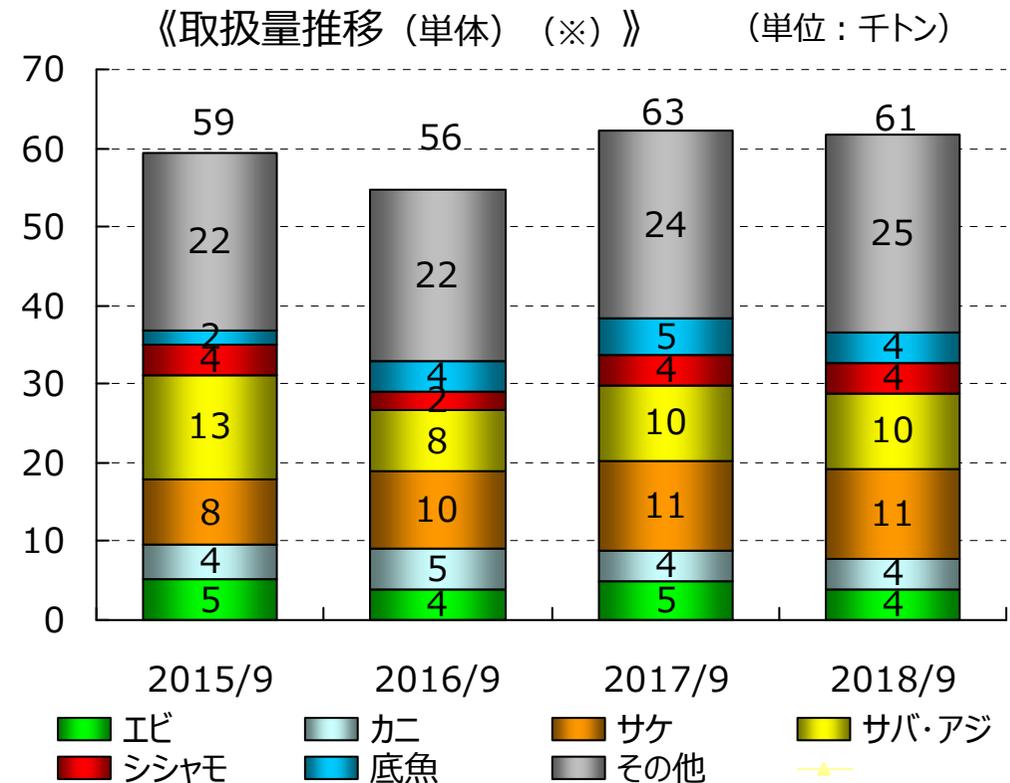
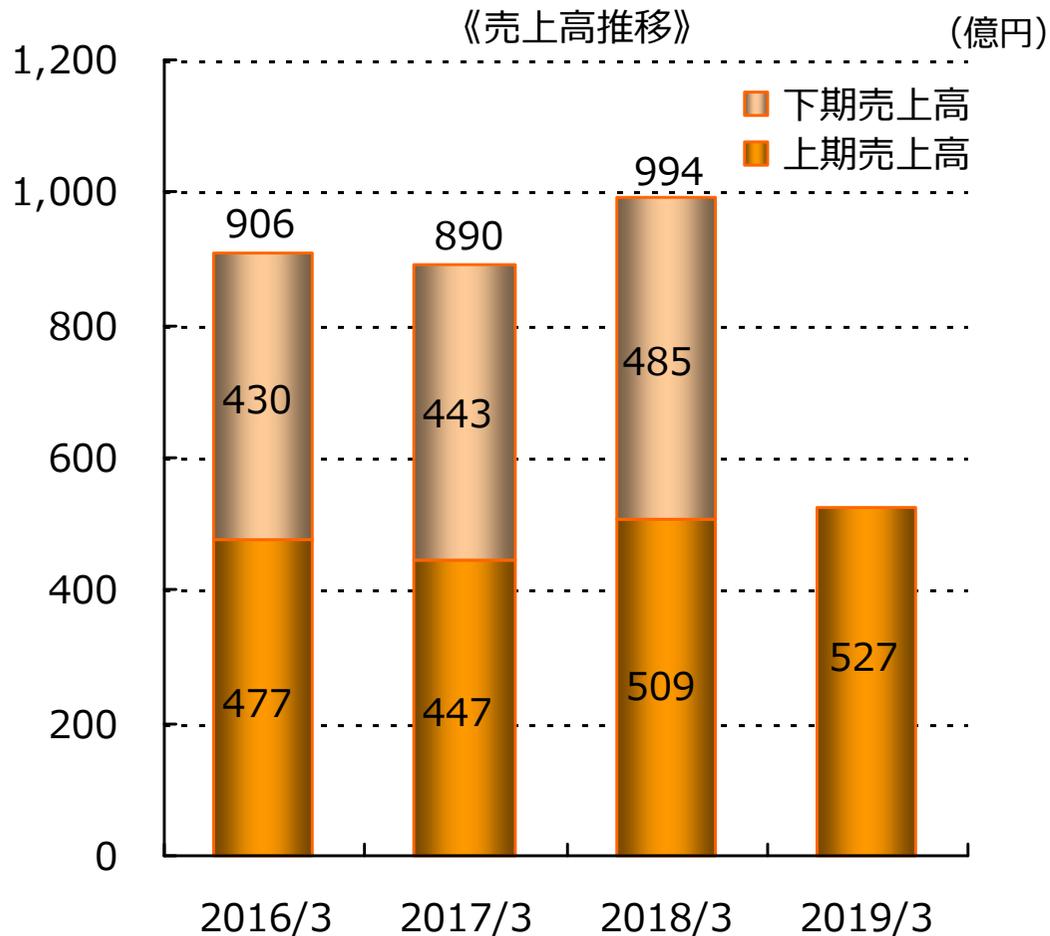
# 食品事業セグメントの状況

## 第2四半期連結累計期間（4-9月）

(億円)	2017年度	2018年度	増減率 (%)
	売上高	509	527
セグメント利益	8	10	+20%

### ▶ 売上高・セグメント利益

サケ類を中心に商品価格が高い水準で推移したほか、鶏肉類の取扱量増により増収・増益。



(※ 従来、商品別数量を記載しておりましたが、今回より各事業セグメントに属する部署の取扱数量に変更しております。)

# 石油・化成品事業セグメントの状況

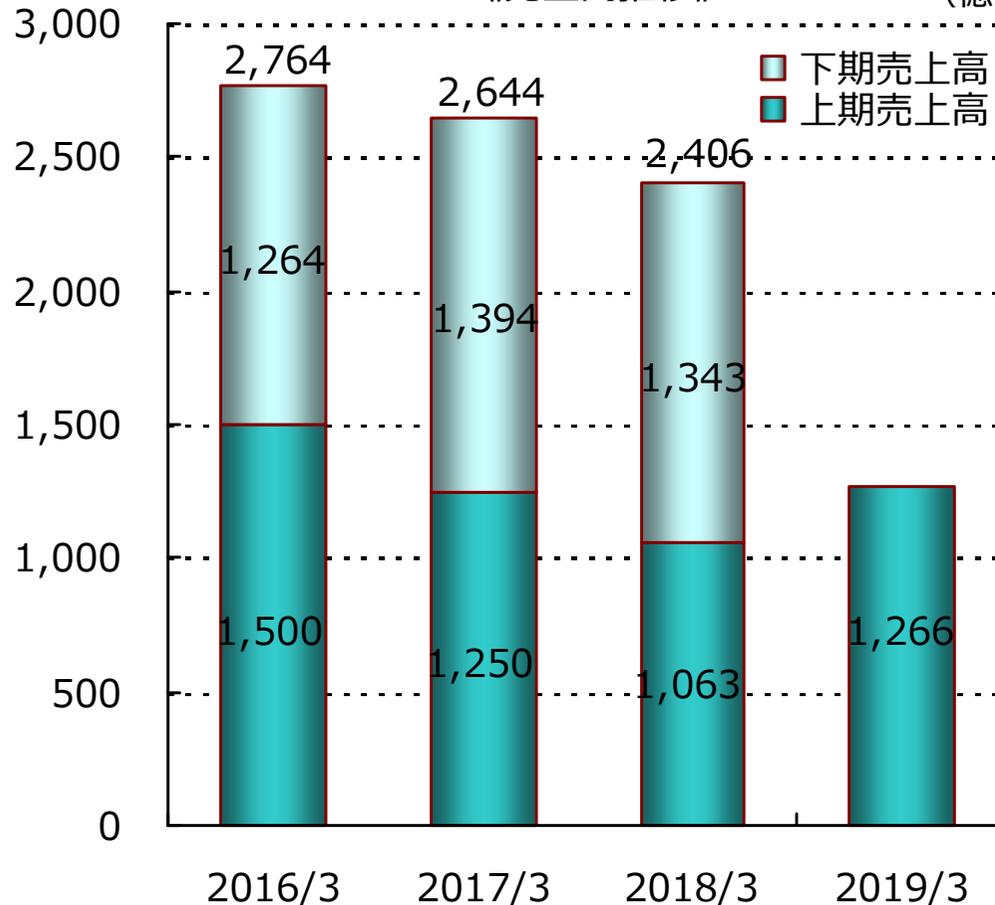
## 第2四半期連結累計期間（4-9月）

(億円)	2018年度		増減率 (%)
	2017年度	2018年度	
売上高	1,063	1,266	+19%
セグメント利益	6	8	+26%

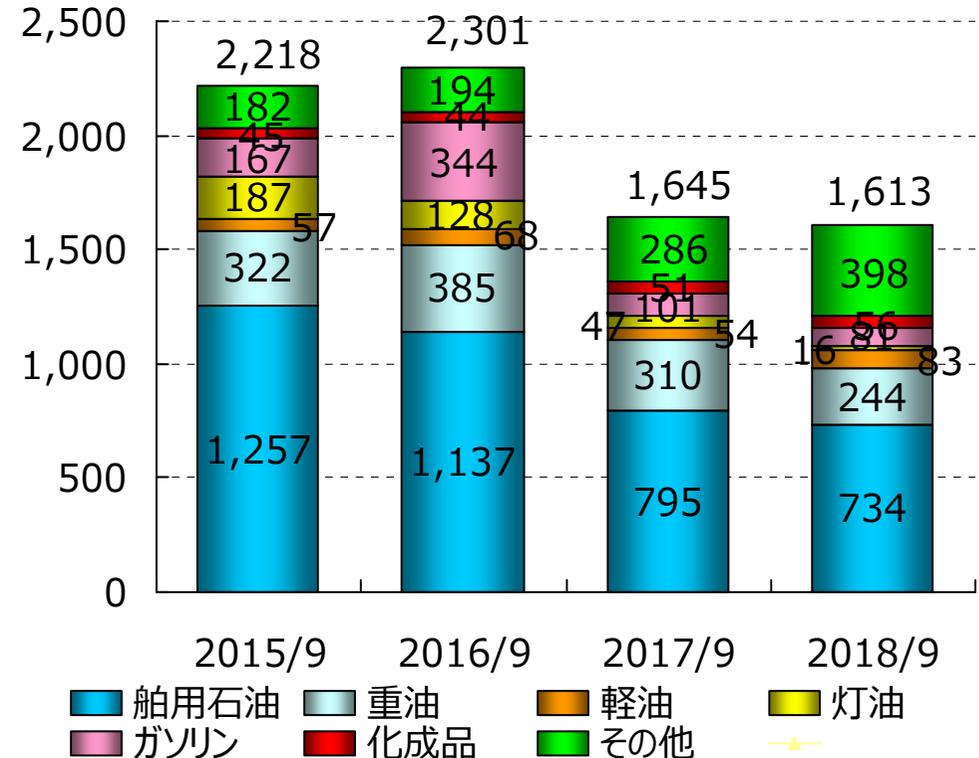
### ▶ 売上高・セグメント利益

原油価格の上昇基調が続くなかで、石油製品価格も高い水準が続き、増収・増益となりました。

《売上高推移》 (億円)



《取扱量推移 (単体) (※)》 (単位：千トン)



(※ 従来、商品別数量を記載しておりましたが、今回より各事業セグメントに属する部署の取扱数量に変更しております。)

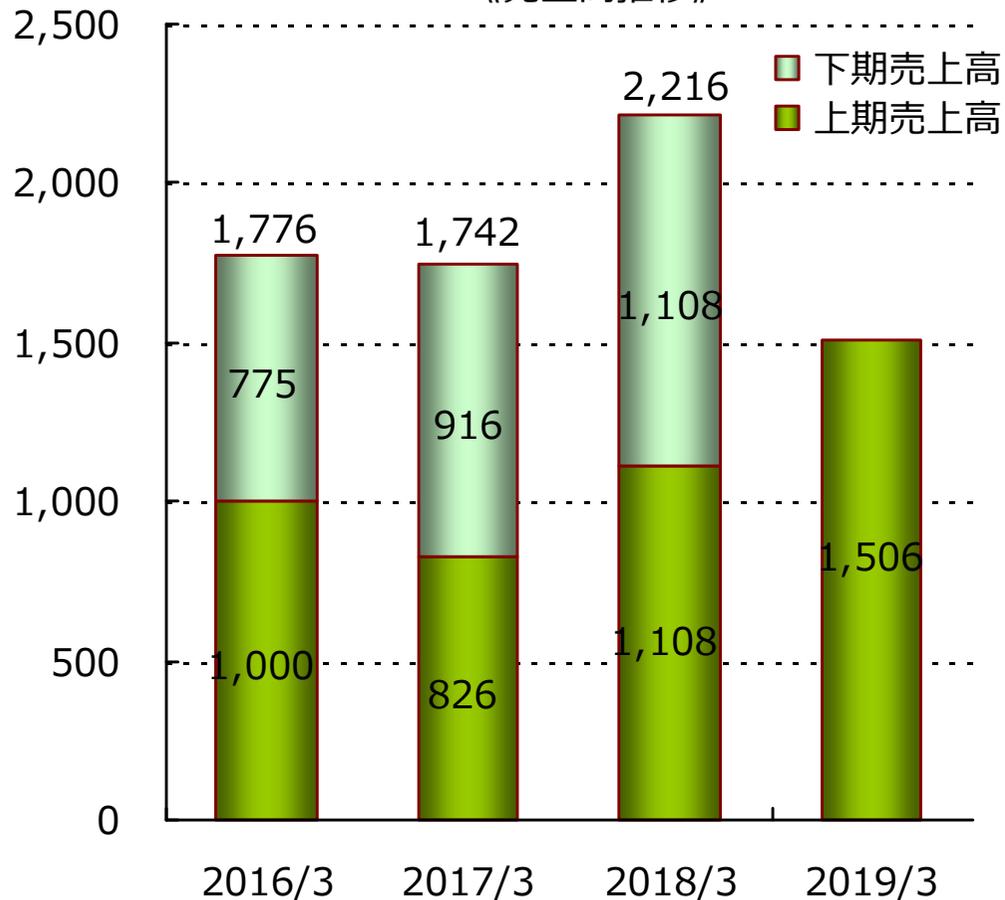
## 第2四半期連結累計期間（4-9月）

(億円)	2018年度		増減率 (%)
	2017年度	2018年度	
売上高	1,108	1,506	+36%
セグメント利益	2	6	+210%

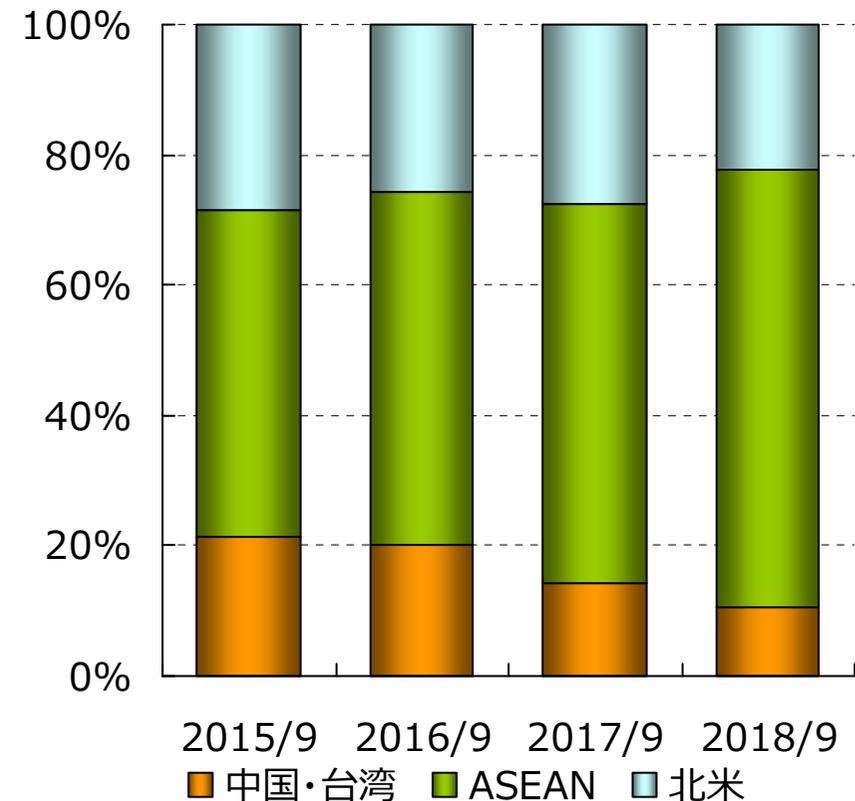
### ▶ 売上高・セグメント利益

シンガポールでの船用石油価格の上昇や非鉄スクラップの取扱い増、インドネシアでの鋼材販売増加により増収。また米国鉄鋼事業の採算改善に伴う利益寄与。

《売上高推移》 (億円)



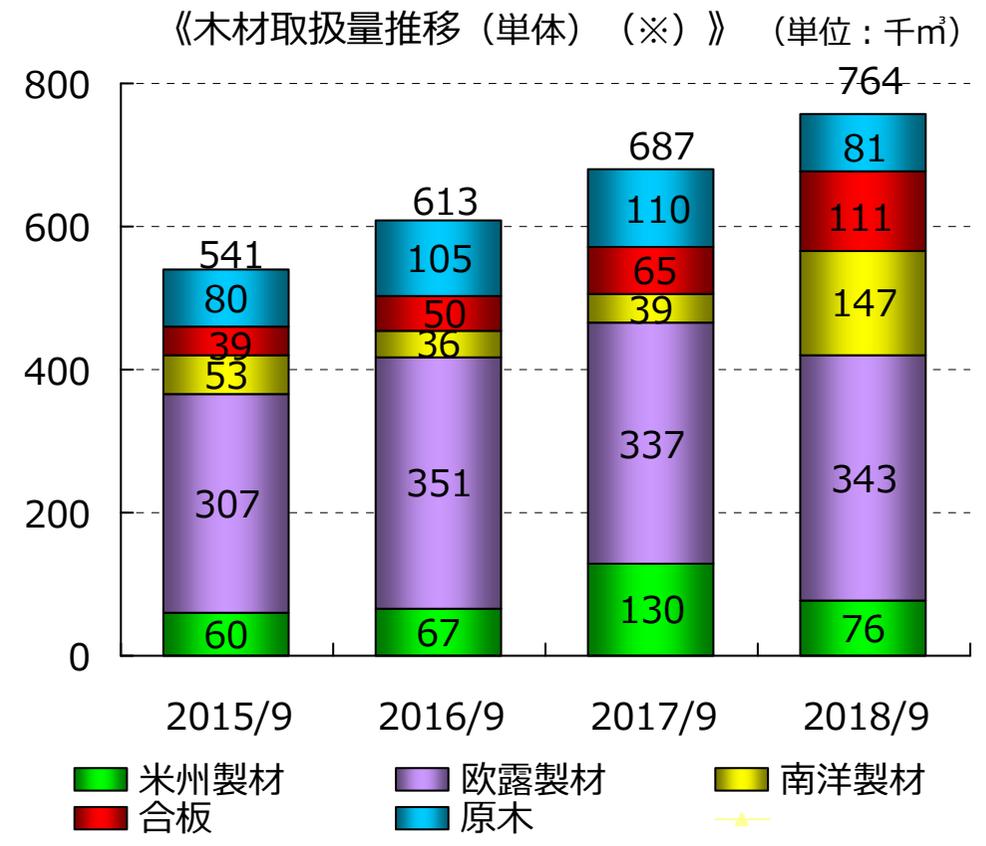
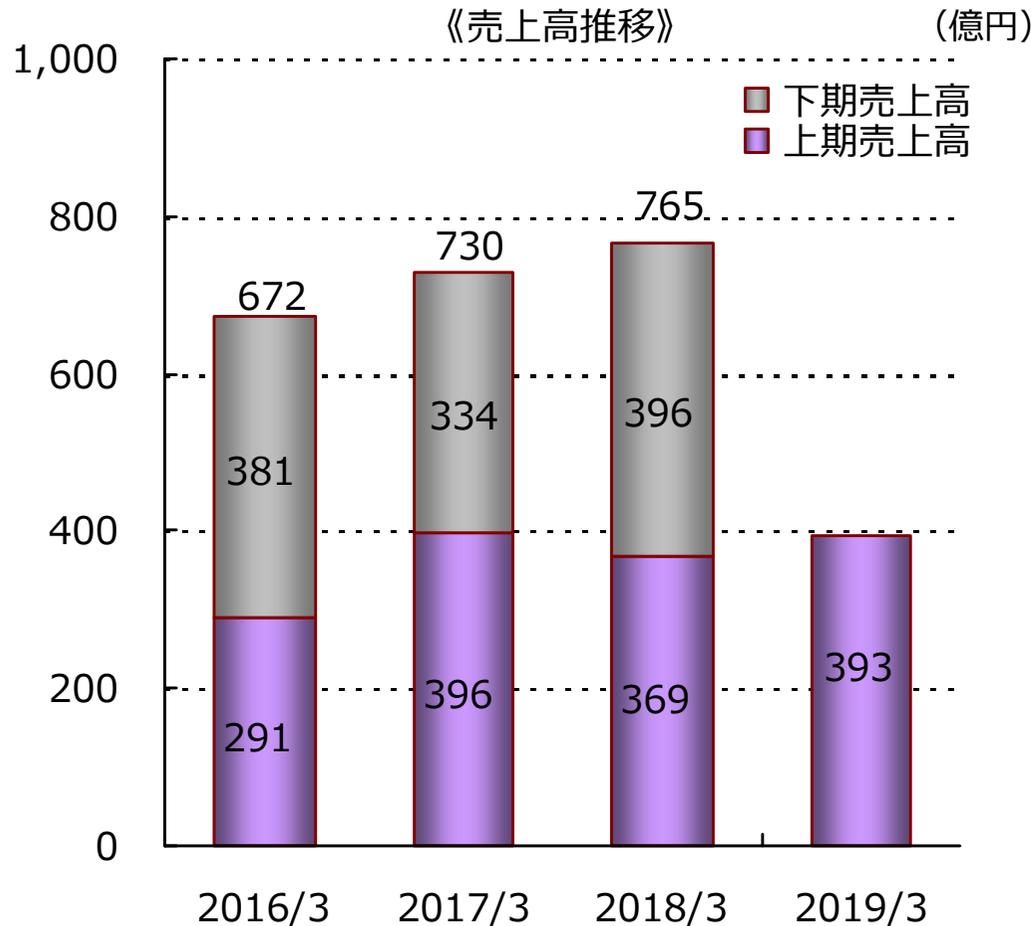
《地域別売上比率推移》 (単位：%)



## 第2四半期連結累計期間（4-9月）

(億円)	2017年度	2018年度	増減率 (%)
売上高	369	393	+6%
セグメント利益	4	4	+10%

▶ 売上高・セグメント利益  
 木材事業で住宅メーカー向け販売が増加し売上高を伸ばした一方、利益面では(株)阪和アルファビジネスからの持分法投資利益が寄与した。



(※ 従来、商品別数量を記載しておりましたが、今回より各事業セグメントに属する部署の取扱数量に変更しております。)

# 中期経営計画の進捗状況

	定量指標の推移			
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 (第2四半期)
(億円)				
ROIC (投下資本EBIT率)	4.5%	6.2%	6.1%	4.8% (2.4%)
ネットDER	1.4倍	1.4倍	1.5倍	1.8倍
新規取引社数	705社	697社	601社	392社
ROE (自己資本純利益率)	17.2%	10.1%	9.7%	7.0% (3.5%)
売上高利益率	1.7%	1.1%	1.0%	0.7%
総資産回転率	2.4回	2.3回	2.3回	2.2回 (1.1回)
財務レバレッジ	4.2倍	4.0倍	4.3倍	4.8倍

(2018年度は年度換算数値。()内は、第2四半期累計期間ベース)

- ▶ 利益率の低下と負債の増加に伴い、ROIC・ROEが減少した一方、ネットDERが増加。
- ▶ 新規取引社数は2016年度から4年間で2,700社の目標に対し、進捗率62.6%と予定どおり。

# 中期経営計画の進捗状況

	2019年3月期	上期実績	通期予想	進捗率
資源投資からの追加収益	<b>STRATEGIC</b> 資源投資からの配当・ 持分法投資収益	▲6	0	－%
国内外グループ会社の収益	<b>SPEEDY</b> 連結子会社経常利益 + 非連結子会社配当等	28	60	46.8%
阪和興業本体の収益	<b>STEADY</b> 単体経常利益 (子会社配当控除後)	86	200	41.1%
	<b>Total</b>	<b>108</b>	<b>260</b>	<b>36.1%</b>

- ▶ STEADY：堅調に販売収益を伸ばした一方、為替差損の影響などから標準進捗率を下回った。
- ▶ SPEEDY：連結子会社、持分法適用会社ともに概ね好調に推移。
- ▶ STRATEGIC：SAMANCORは利益こそ確保しているものの、同社が過年度に買収した子会社での一時的なコスト増加などから、同社株式に対するのれんなどの償却負担を含めると、利益貢献には至っていない。

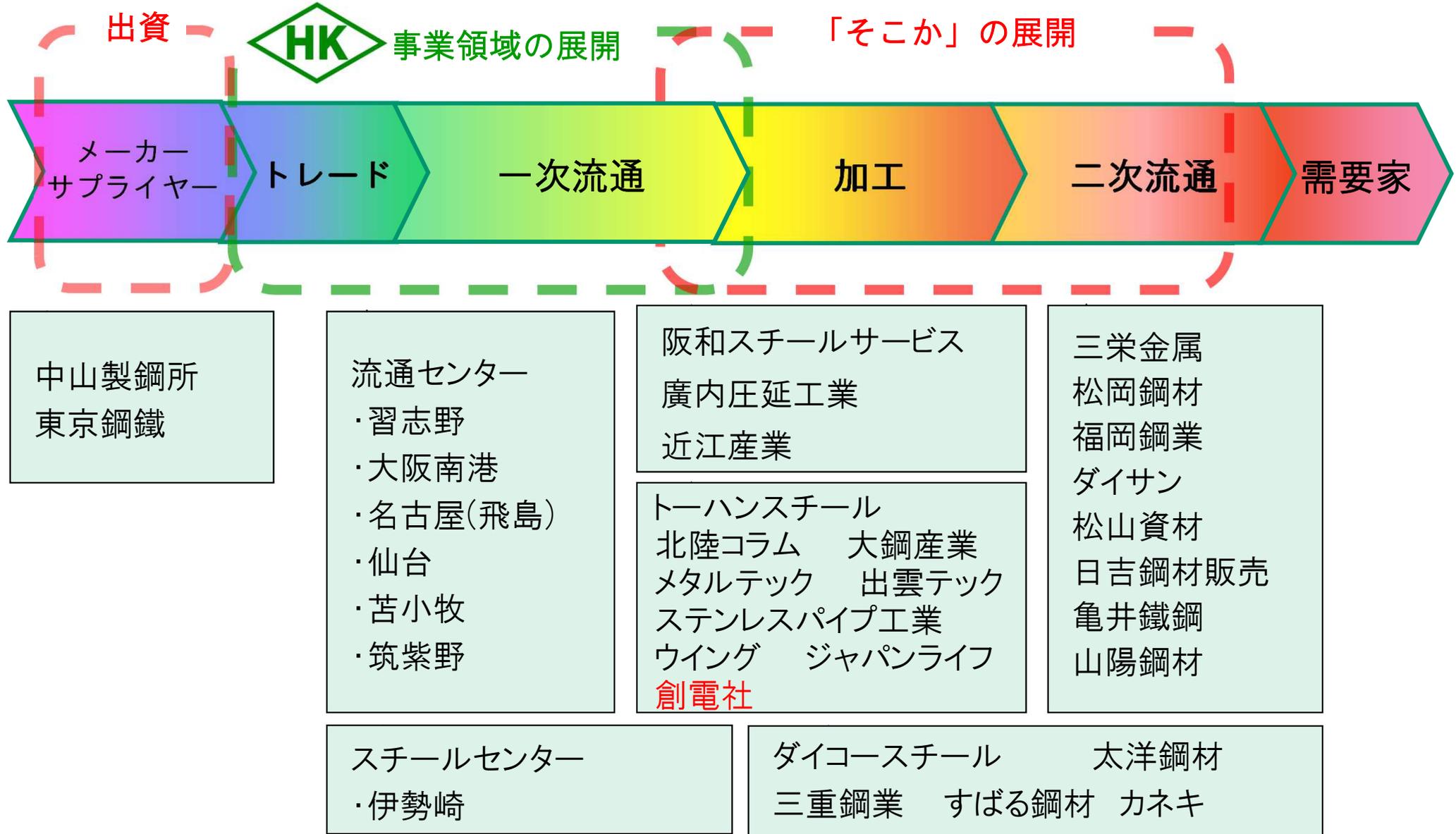
## 【セグメント別 グループ会社の経常損益推移】

	第2四半期連結累計期間（4-9月）						
	2017年度		2018年度		増減額		
	(億円)	〈連結子会社〉	〈非連結子会社〉	〈連結子会社〉	〈非連結子会社〉	〈連結子会社〉	〈非連結子会社〉
鉄鋼		22.6	4.8	13.0	3.7	▲ 9.6	▲ 1.0
金属原料		1.1	0.1	0.5	0.6	▲ 0.6	+0.5
非鉄金属		1.7	1.1	1.9	0.0	+0.2	▲ 1.1
食品		0.9	▲ 1.0	▲ 0.2	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 0.2
石油・化成品		0.8	0.4	1.9	0.4	+1.1	▲ 0.0
海外販売子会社		2.0	0.4	7.2	2.3	+5.2	+1.9
その他		2.3	0.9	2.3	1.9	+0.0	+1.0
<b>合計</b>		<b>30.3</b>	<b>7.9</b>	<b>26.5</b>	<b>7.7</b>	<b>▲ 3.8</b>	<b>▲ 0.2</b>

（合計は各社利益の単純合算、前第2四半期の連結・非連結区分は、当第2四半期ベースに組替）

- ▶ 鉄鋼事業は、国内子会社（そこか）では増益となったものの、海外コイルセンターにおいて新興国通貨の下落の影響もあり、全体としては減益となった。
- ▶ 海外販売子会社は、シンガポールでの非鉄・石油化成品事業やインドネシアでの鋼材販売の増加が収益を押し上げたほか、米国の鉄鋼事業の採算改善などにより増益となった。

# 国内バリューチェーン伸長戦略の状況



引き続き機能のある中小の鋼材卸売・加工業者をグループ化し、「そこか（即納・小口・加工）戦略」を推進。既報のとおり、第1四半期において(有)創電社を子会社化したほか、アイワスチール(株)に一部出資。

# 東南アジアに第二の阪和戦略の進捗状況

## 【主要なアライアンス先】

国	流通	加工	製造
タイ		HSS Thailand PCM Processing	Furukawa Unic Siam Hanwa
インドネシア	Kapurindo Sentana Baja	HSS Indonesia	Araya Steel Tube Indonesia
シンガポール	CosmoSteel Holdings HG Metal Manufacturing		JFE Meranti Myanmar
ベトナム	SMC Trading TON DONG A CORP.	NSSB Saigon Coil Center	Nippon Steel & Sumikin Pipe Vietnam SMC Toami Sendo Steel Pipe
マレーシア	TATT GIAP Group	Eversendai Corp. TATT GIAP Steel Centre	Nippon Egalv Steel Bahru Stainless
フィリピン			Sohbi Kohgei (Phlis)

- ▶ 当社のビジネスモデルをASEAN地域に浸透させるために、現地の有力な流通業者とのアライアンスや日系企業との共同進出を拡大している。

# 戦略的投資の状況



市場規模は小さいながらも、産業界にとって不可欠なもので、最大需要地である中国での産出の少ない金属資源を対象に実施。

## 【当期の主な事業投資実績】

(億円)	総額	主要な投資内容
鉄鋼	45億円	・大明国際との鉄鋼総合加工センター立上げ ・北関東スチールセンター増築 ・Tatt Giap Steel Centreへの追加出資・子会社化
金属原料・非鉄金属	1億円	子会社における設備の更新
石油・化成品	1億円	新エネルギー事業分野への投資
海外販売子会社	33億円	子会社の資本増強
<b>合 計</b>	<b>82億円</b>	

- ▶ 将来の利益積み増しのため、約82億円の事業投資を推進。
- ▶ 国内外における加工センターの展開や、海外販社の取扱高増加に合わせた資本の増強等を実施。

ユーザーのために・ユーザーとともに



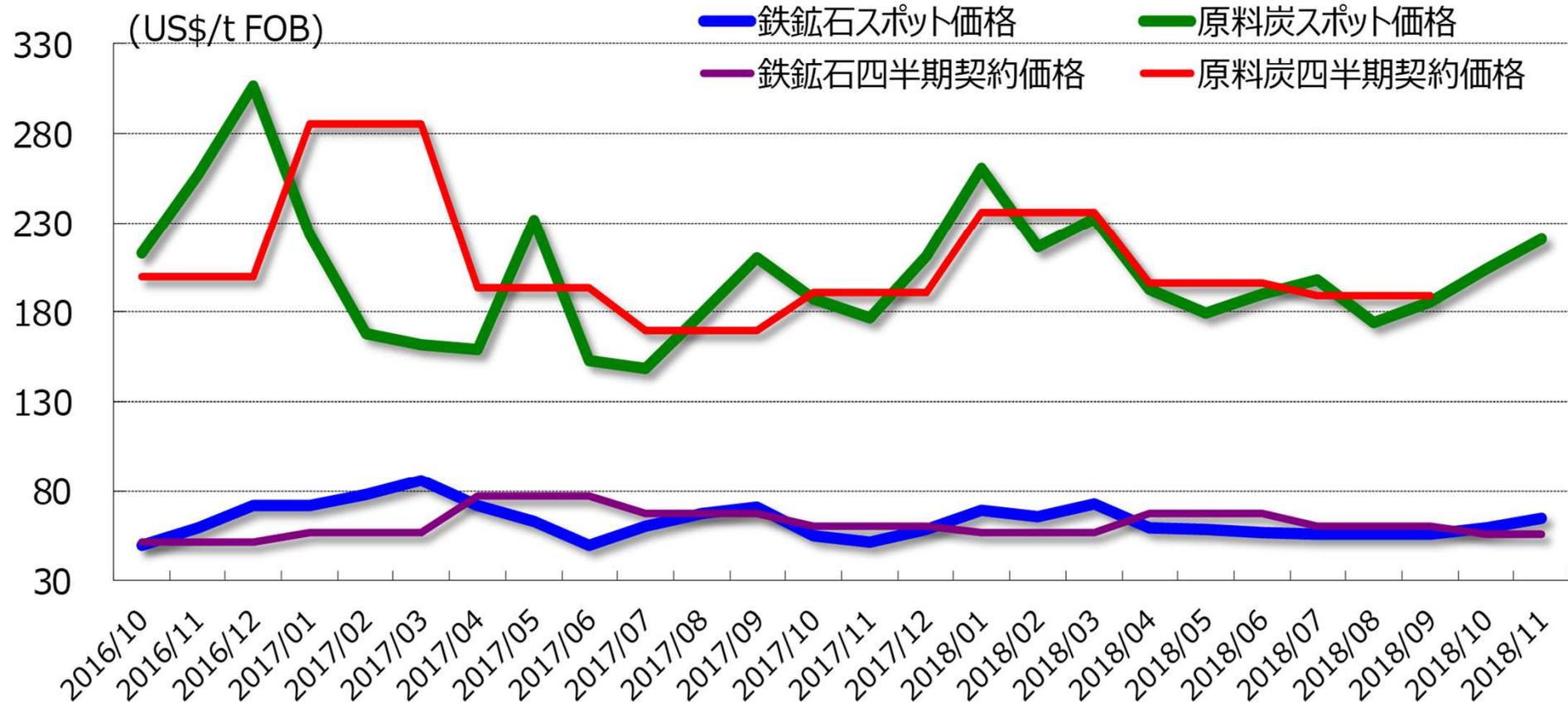
## 阪和興業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

# (参考資料)

---

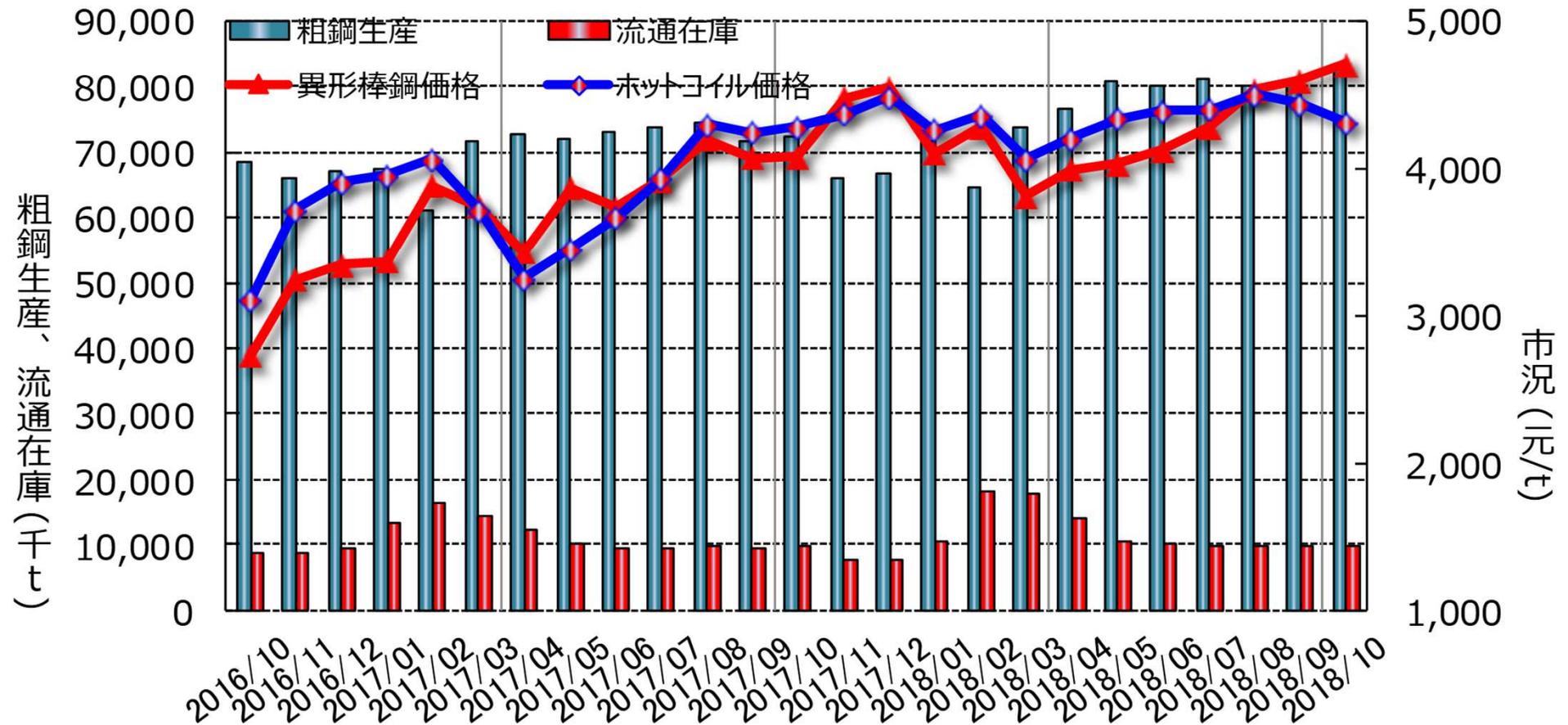
## 【主原料価格の推移】



鉄鉱石…中国当局による環境規制等の影響もあり、鋼材価格は安定を維持。鉄鉱石も堅調に推移した。

原料炭…環境規制等により中国国内炭がタイト化し輸入炭へシフトしたほか、インド等からの引き合いも好調ななかで、港湾トラブルや物流の停滞の影響もあり、緩やかに上昇。

## 【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】

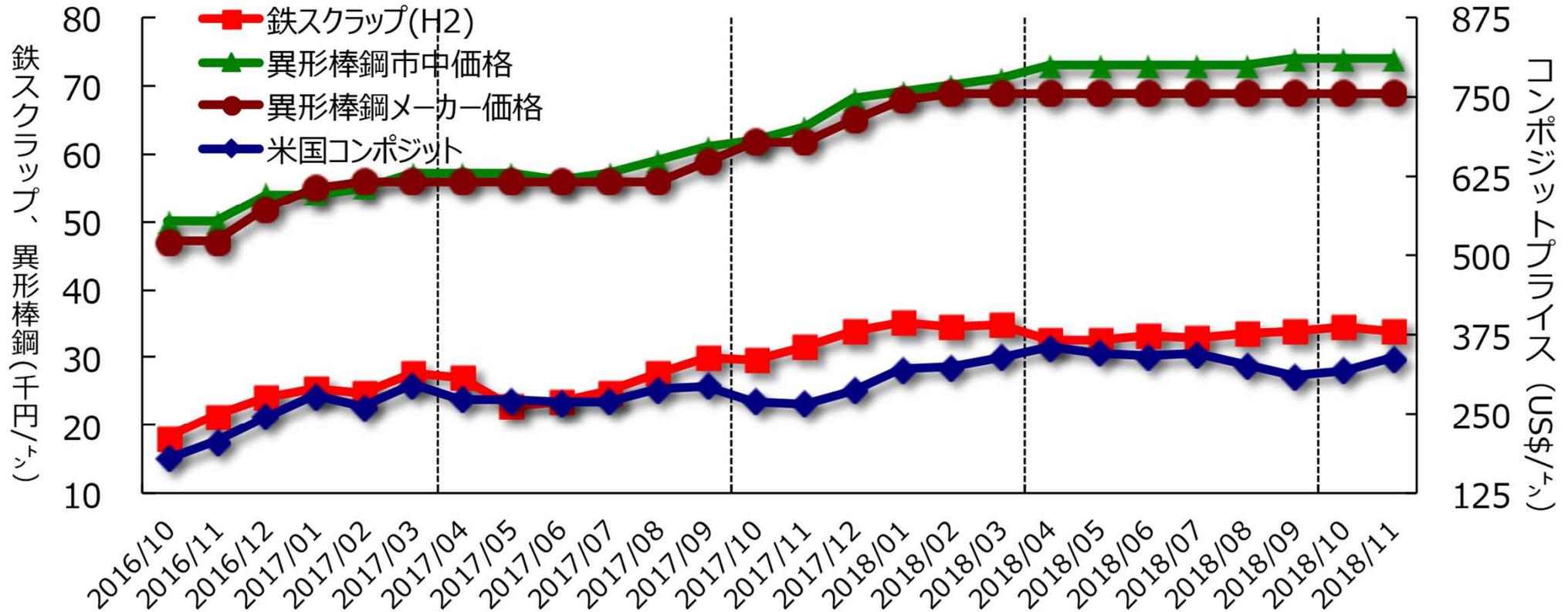


鉄鋼需給…前期の地条鋼の生産禁止以来、正規の鋼材需要が増加。ミルは増産方向に傾くも、当局による環境規制等の影響もあり、国内需給は均衡。

市中価格…地条鋼廃止により、現物在庫は低水準へ。生産規制もあり、鋼板類含めて価格は堅調に推移。

(出所：日本鉄鋼連盟)

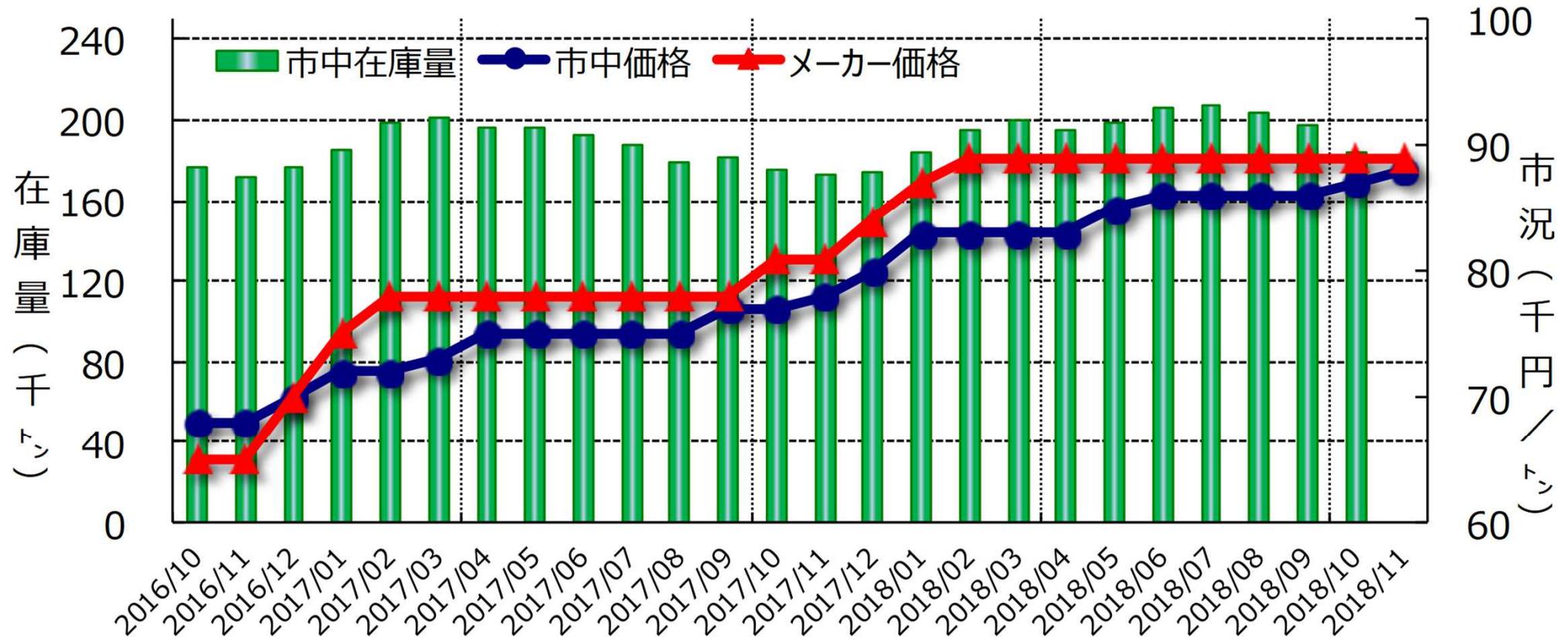
## 【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】



需給動向…環境規制対応による中国でのスクラップ配合増や電炉シフトにより、アジアのスクラップ需給は引き締まり、国内でも災害による発生・集荷の停滞により、タイトな状況に。

市況動向…堅調な国際市況や国内集荷の停滞により、電炉の購買価格は上昇基調が続いた。足元ではアジア向けの需要が減少して、アジア市況が弱含み傾向になり、国内市況も下げ基調に。

## 【H型鋼 市中外在庫量と市況の推移】

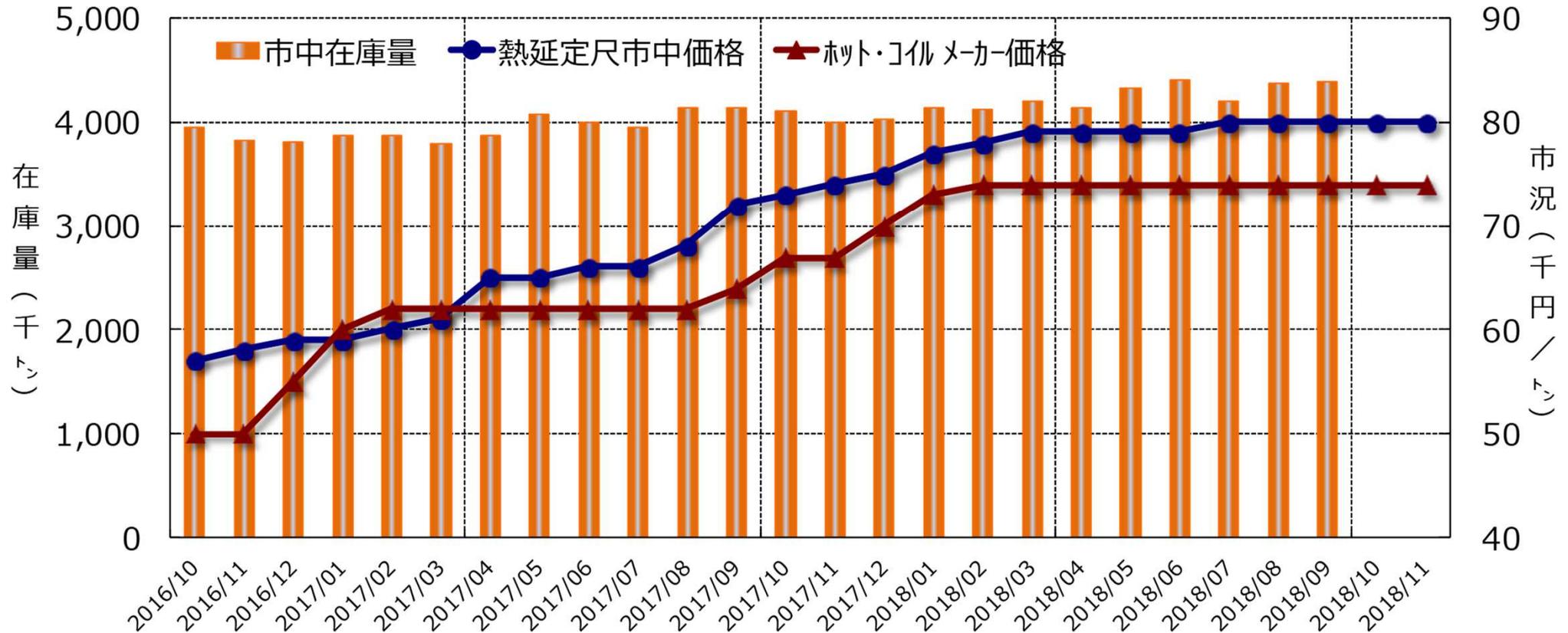


需給動向…大型建築物や土木向け需要は堅調に推移するも、FABや物流面での人手不足の影響もあり、工期の遅れと在庫の逡増傾向に。

市況動向…鉄鋼ミルの値戻し方針と需要の増加傾向を反映し、市中価格も上昇傾向にあるが、上昇ペースは緩やかになってきている。

(出所：在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

## 【薄板3品市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】

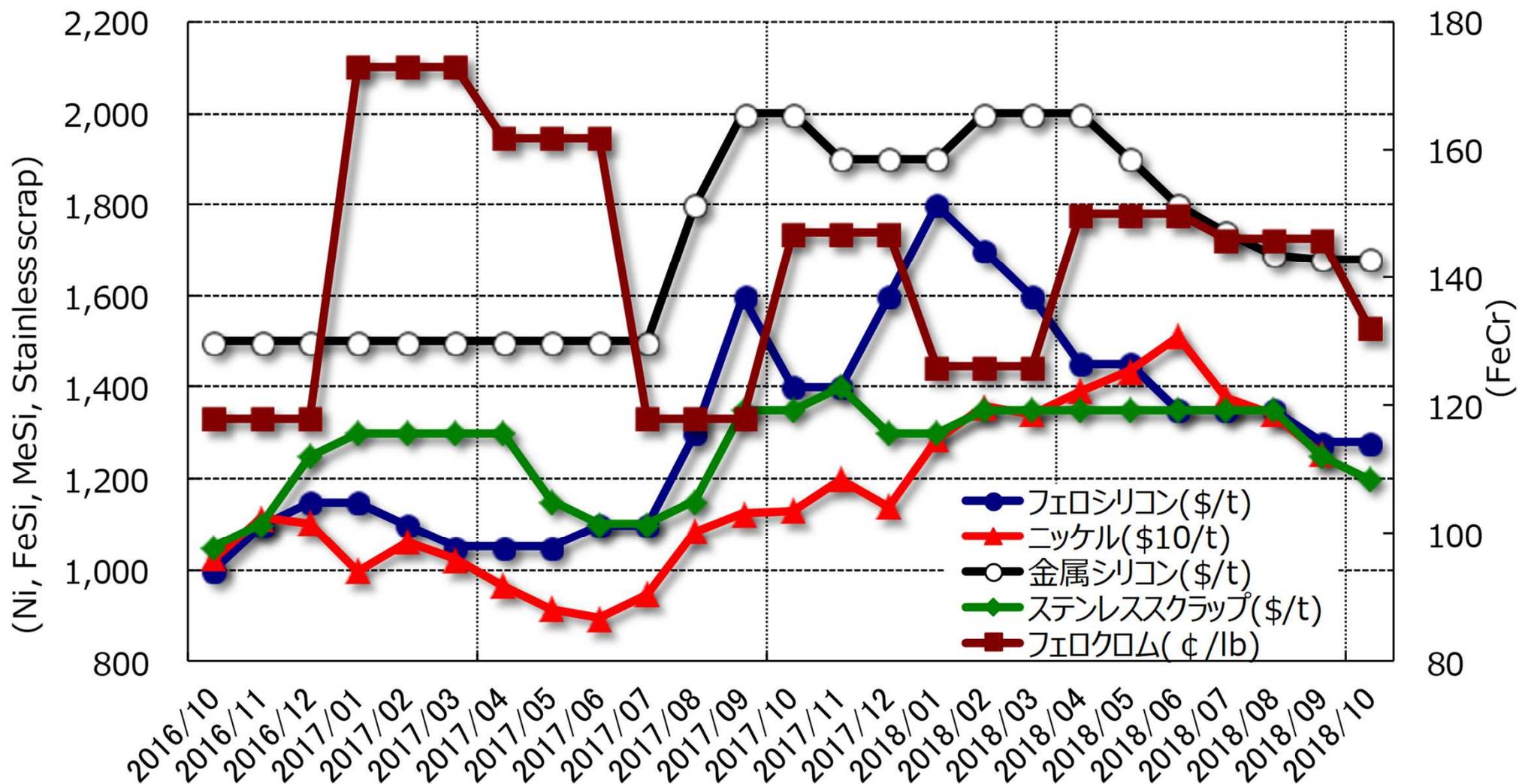


需給動向… 製造業の稼働は概ね堅調で、鋼板需要は底堅く推移。鉄鋼ミルの炉修や不調、自然災等の影響もあり、タイト感がでた。

市況動向… 鉄鋼ミルの値上げ姿勢により、市況は上昇。引受カット等もあり、タイト感が強まっているが、上昇ペースは徐々に鈍化している。

(出所：在庫/日本鉄鋼連盟、価格/鉄鋼新聞)

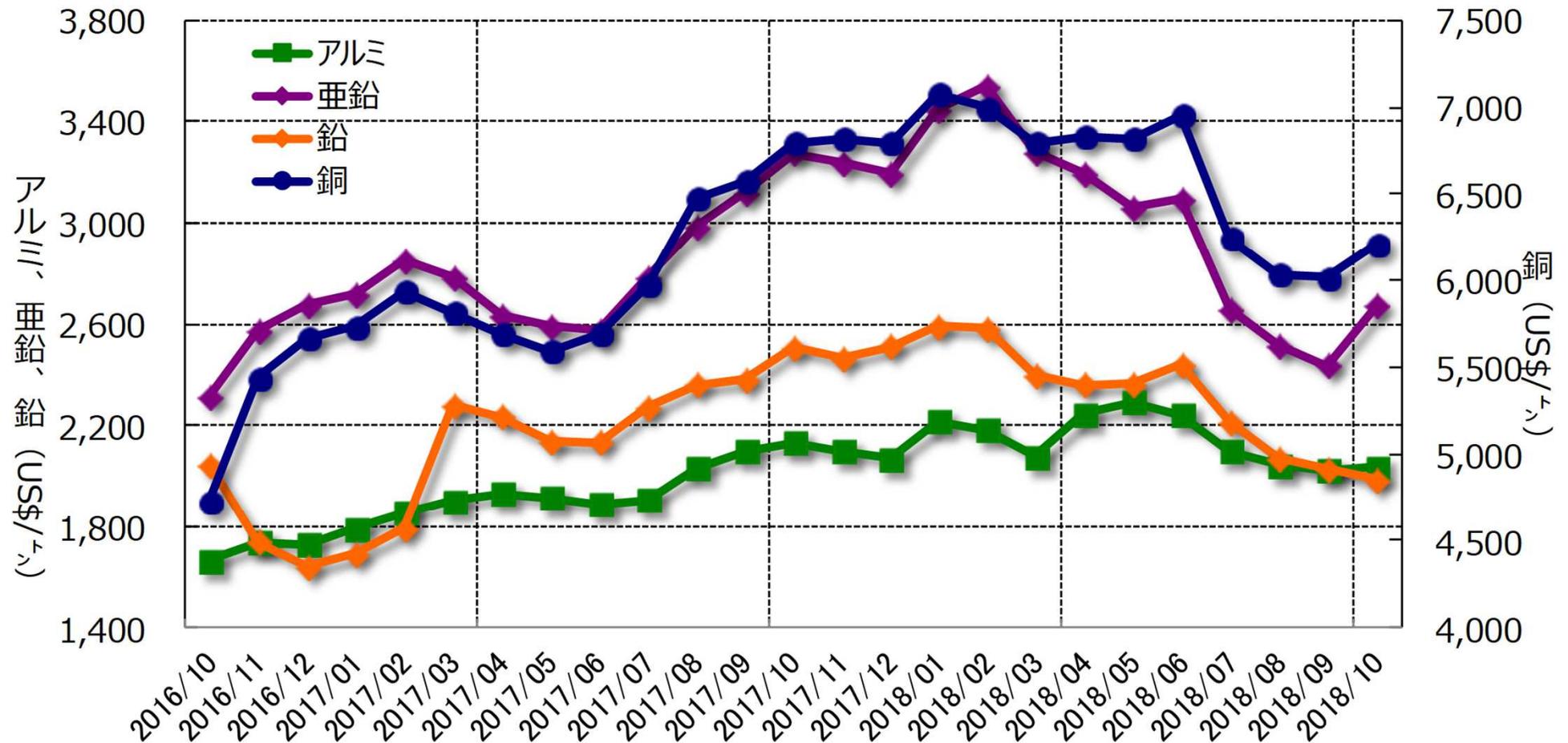
# 金属原料市況の推移



ニッケル…ステンレス需要に加え二次電池等への需要の期待感から市況は上昇を続けたが、米中貿易摩擦に対する懸念等が重しとなり足元で調整局面に入っている。

合金鉄…中国の鋼材増産から需要が増加する一方で、環境規制等の影響もあり、供給がタイト化し、価格は上昇を続けた。足元では中国景気への減速懸念等を反映し弱含み。

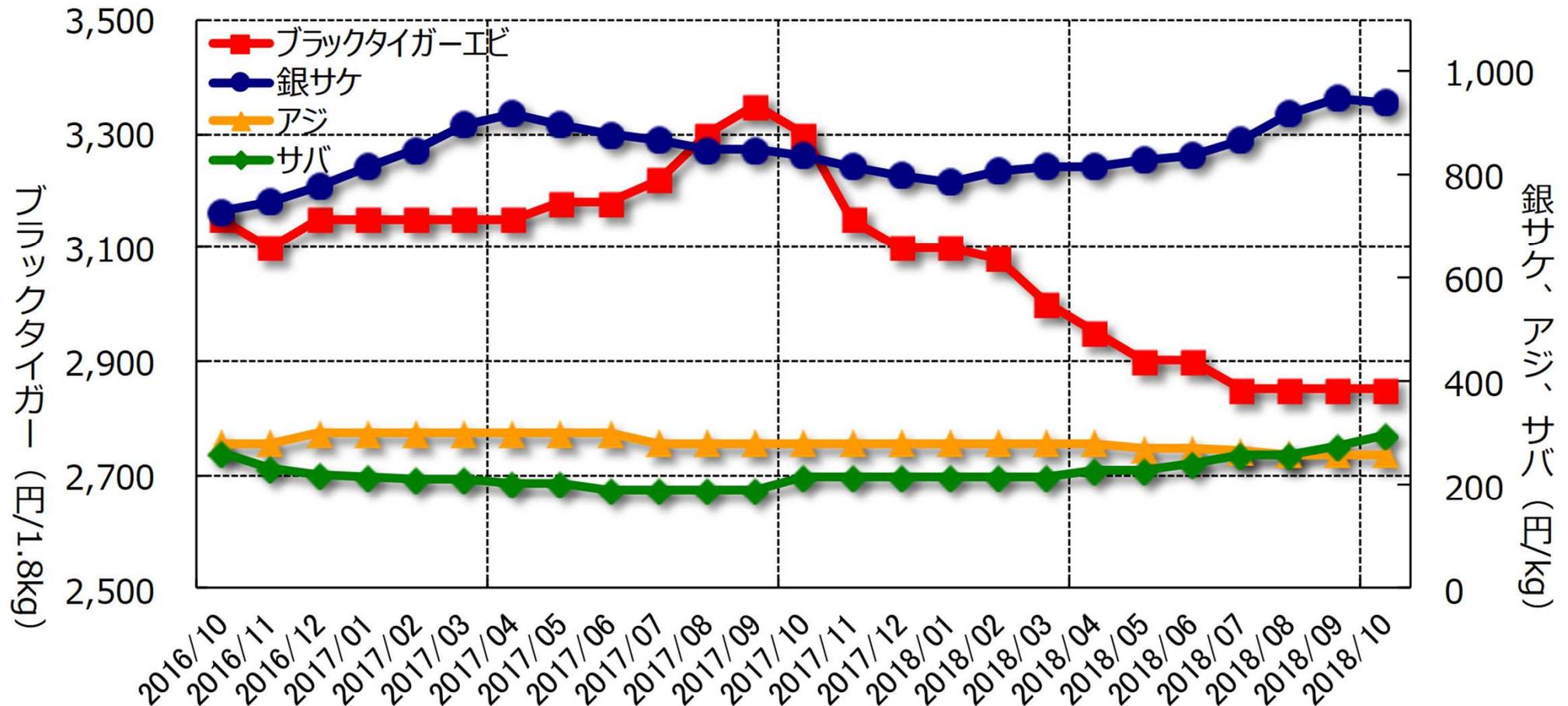
# 非鉄金属市況の推移



アルミ…米国によるロシア企業への制裁や米中貿易摩擦等の影響懸念等から価格は上げ下げしたもの、総じて高値で推移。

銅…中国需要への期待感やチリ銅山での労働争議への懸念等から価格は概ね上昇傾向にあったが、米中貿易摩擦や新興国通貨の下落の影響もあり徐々に下げに転じた。

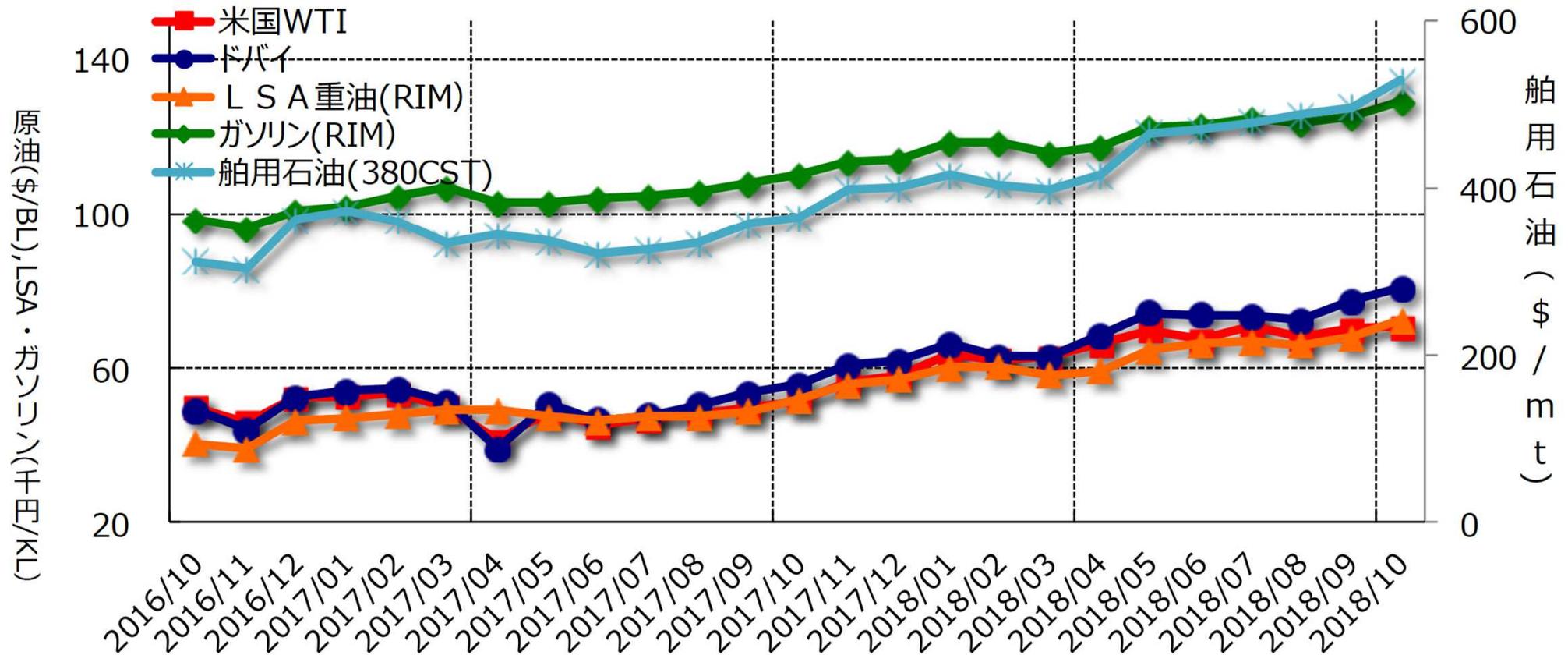
# 輸入水産物市況の推移



サケ…ロシア・アラスカにおける紅鮭の水揚げ量減少に加え、チリ銀ザケも端境期を向かえ品薄状態となっており、国内相場は引き続き上昇傾向にある。

エビ…各産地での養殖数量の増加に伴い価格は下落。北米・日本の買い付け意欲も依然低く、弱含みで推移。

# 原油・石油製品市況の推移



原油…産油国の協調減産や米国のイラン核合意離脱問題の影響などにより上昇基調で推移。

製品…原油価格の底堅い動きに加え、元売会社の製油所トラブルなども重なり、総じて高い水準を持続した。